

3R 活動の推進とごみの減量・再資源化の取り組み

当別町では平成 18 年から家庭ごみの処理を有料化し、ごみの分別回収を実施しています。「町民一人当たり 1 日のごみの排出量」は、平成 27 年以降、現在まで横ばいで推移していますが、資源物等の「再資源化率（リサイクル率）」は減少しています。

また、令和 3 年に「当別町一般廃棄物処理基本計画」を策定し、循環型社会の構築に向けて様々な施策に取り組んでいます。

町民の皆さん一人ひとりが「3R 活動」を実践し、ごみの減量（排出量の削減）と再資源化（リサイクル率の向上）を図りましょう。

■問合せ 環境生活課環境対策係 (☎ 23 - 2503)

3R 活動とは

3R とは「Reduce（リデュース）…ごみの発生抑制」「Reuse（リユース）…再使用・繰り返し使用」「Recycle（リサイクル）…再生利用・再資源化」の 3 つの頭文字をとったもので、循環型社会に関するキーワードです。

循環型社会の実現のために、自分のできることから 3R 活動に取り組みましょう。

Reduce（リデュース）

- 長く使える製品の購入
- 詰め替え容器に入った製品や簡易包装された製品の購入
- 食品は無駄なく調理し、廃棄をなくす

Reuse（リユース）

- 回収後再使用できるリターナブル容器製品の購入
- フリーマーケット・リユースショップ等の活用
- 不用になった家電製品や家具を譲る

Recycle（リサイクル）

- 再生素材やバイオマス資源から作られたリサイクル製品の購入
- 新聞などの紙類、ビン、缶、ペットボトル、衣類、などは分別して資源回収へ
- 家電リサイクル法対象製品は、販売店への引き取り依頼など正しく処分する

ごみ減量化・再資源化の取り組み

当別町では、ごみ減量化・再資源化のために以下の取り組みを行っています。

- 紙類の回収（新聞、雑誌、段ボール、紙パック等）
- 容器包装の回収（アルミ缶、スチール缶、ビン、ペットボトル）
- 繊維の回収（衣類、寝具類、毛布）
- 生ごみ堆肥化容器等の補助
- 使用済みインクカートリッジの回収
- 使用済み小型家電の回収
- 使用済み天ぷら油の回収

使用済み天ぷら油がふれあいバスの燃料に

ふれあいバスでは、一部の車両に使用済み天ぷら油を原料とする軽油の代替燃料、BDF（バイオ・ディーゼル・ヒューエル）を使用しています。

令和 4 年度は、9,083 リットルの BDF を使用しました。これはふれあいバス全体の燃料使用量の約 15% を占めています。

使用済み天ぷら油は、下段モーターズやふれあいバス車内を始め、役場環境対策係、ゆとろ、西当別コミセン他で回収しています。詳しくは下記 QR コードから「拠点回収リサイクルについて」をご覧ください。



株式会社JEPLANとの連携による新たな活動

令和5年10月3日、当別町は株式会社 JEPLAN（ジェプラン）と地域循環共生圏推進に関する包括連携協定を締結しました。

使用済みペットボトルの活動資源循環を推進し、新たな石油資源の使用削減やCO₂排出量の削減を図るとともに、協力して町民や子どもたちへの環境教育や啓発活動を実施して参ります。



令和5年10月3日包括連携協定締結式

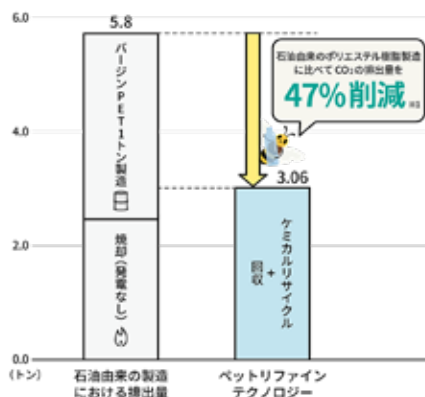
ペットボトルのリサイクル

今後、当別町から排出されるペットボトルは、JEPLANグループ独自のケミカルリサイクル技術を用いて、再生PET樹脂に生まれ変わります。

これにより、廃PETボトルを焼却して石油資源由来のPET樹脂を製造する場合と比較して、CO₂排出量を約47%削減できる見込みです。

ペットボトルのリサイクル率を高めるには、燃やせないごみとして捨てずに資源物として出す必要があります。

使用後はキャップとラベルを外してから中身をすすぎ、ペットボトルは資源物として出すようにお願いします。



ポリエステル（PET）樹脂1トン製造時のCO₂排出量の比較



キャップ、ラベルは外して燃やせないごみへ
ペットボトルは資源物として出してください

株式会社 JEPLAN 岩元取締役執行役員会長より

JEPLANは、地球環境への配慮と平和の実現を目指しています。まずはリサイクルしやすいペットボトルから始め、次にオモチャや衣類等、さらに多様な資源循環を推進し、地下資源への依存度を減らす循環型社会を目指して「地球環境と平和」への取り組みを広げていきたいと考えています。

また、有名なハリウッド映画に登場する車型のタイムマシン「デロリアン」を、ごみ（古着）を燃料の一部として動かすプロジェクトや、オモチャのリサイクルなど、楽しみながら循環型社会の実現に向けた実践活動を行っています。

これらの取り組みが、「地球環境と平和」のトレンドになると考えています。楽しみながら未来について考え、子どもたちにもその魅力を伝えることが私たちの目標です。

